



# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動  
参加園月例会報  
(2021年9月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081  
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、  
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



やっと酷暑の夏が過ぎ、朝夕に涼しさを感じる季節となりました。

ただ、新型コロナウイルス感染症の状況は、変異株が猛威をふるい改善の気配が感じられません。

長引く感染症対応でのお疲れと季節の変わり目が重なり、体調を崩されないよう

ご体調管理に十分にご留意下さい。

(目次)

1. 2021年度上半期オンライン講座レポート
2. 「保育防災アクションマイスター認定講座」見学(体験)参加者を募集
3. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ(2021年9月号)

## ■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

## ■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



## 1. 2021年度上半期オンライン講座レポート

「新型コロナウイルス感染症」の感染症対応が長引く状況をふまえて、2021年度、J P 子どもの森づくり運動では活動の3つの柱となるテーマである、1) 自然・環境体験活動 2) 園庭緑化運動 3) 保育防災について、それぞれ質の高いオンライン研修講座を開催中です。以下に、今年度上半期の活動レポートをお送りします。

### 1) 「自然・環境体験講座全国キャラバン2021」オンライン講座

感染症下においても、子どもたちの自然や外遊びの体験の機会は保障されなければなりません。そのため、J P 子どもの森づくり運動では、今年度も「自然・環境体験講座全国キャラバン」を実施することとしました。感染症の状況を鑑み、上半期は体験活動のスキルアップを目指すオンライン講座を実施し、多くの保育者にご参加いただき学んでいただきました。

【7月講座】	【8月講座】	【9月講座】
体験活動における感染症対策 ■日時：2021年7月17日(土) ■講師：帝京大学 医療技術学部 看護学科 准教授 三木 祐子先生 ■申し込み者数：27名	保育のための安全対策講座 ～屋外保育における危険予知～ ■日時：2021年8月6日(金) ■講師：札幌大谷大学短期大学部 保育科准教授 田中 住幸先生 ■申し込み者数：35名	子どもと自然 ～多様な自然体験が子どもを育む～ ■日時：2021年9月9日(木) ■講師：東京学芸大学 名誉教授 工学博士 小澤 紀美子先生 ■申し込み者数：37名
		

### 2) 「園庭緑化運動2021」

園庭を、単なる平坦な運動だけの場ではなく、幼児(少)期の子どもたちにとって、多様な自然や環境の体験のできるもっとも身近なフィールドとして緑化、自然化していこうという運動です。2020年度から、モデル活動園として、東京都「三茶こだま保育園(都市型)」、静岡県「エンゼル幼稚園(郊外型)」、鹿児島県「こども園ほしのこ(田園型)」の、それぞれ特徴的な立地にある3園にご参加いただいています。



「園庭緑化運動」参加園シール

「園庭緑化運動」の1年目となる2020年は、参加園それぞれの方向性の確立とモチベーションを高めるために、年4～5回のワークショップを実施しました。そして2年目となる2021年は、小さくても良いから目に見える成果を出すことを目的として活動いただいています。J P 子どもの森づくり運動では、モデル活動で培われた知見を、定期的に参加園に還元することとさらに、今年度中に、園庭緑化運動の2年間を取りまとめた小冊子を作成、運動の集大成として会員園に提供する予定です。

以下、鹿児島県「こども園ほしのこ」さんの活動成果事例です。



シンボルツリーを植樹しました。



活動は、保護者とともに実施されました。



トンネルのある築山を作成しました。

### 3) 「保育防災アクションマイスター認定講座」

2020年度から、消防庁アドバイザー（株）タフ・ジャパン 代表 鎌田修広氏と共に準備して来た、「保育防災アクションマイスター認定講座」（以下、「認定講座」）がスタートしました。同講座は、保育施設に特化した防災のスキルと高い防災マインドを持つ防災リーダーの養成を目指すオンライン講座です。同講座には、2021年度、全国の参加園から12園が参加し、2021年5月21日（金）に第1回目のオンライン講座が開催されました。自園で取り組んでいる保育防災を客観的に評価しづらい参加園にとって、他園との情報交換の中で進められる本講座は、とても有意義なものとなったようです。



#### 「認定講座」の特徴は、以下の項目です。

- ①通常の防災の仕組みや方法が通用しない、保育施設に特化した保育防災講座であること。
- ②それぞれの参加園の事情に応じた、オリジナルの保育防災の仕組みと方法の構築を目指す講座であること。
- ③受講者だけではなく、それぞれの園における防災に関する課題を、園全体で共有しながら進行する講座であること。
- ④大手通信会社との連携で、保育の現場に対応できる「安否確認・一斉通報システム」も提供していること。

「認定講座」の2021年度のカテゴリー、開催スケジュールは以下の内容です。（         は、9月末現在実施済み講座

カテゴリー	活動期間（平均40日間）	ワークショップ開催日
説明会	2021年4月12日(月)	認定講座全体説明
第1回：事前準備・初動体制	5月6日(木)～6月11日(金)	5月21日(金)
第2回：情報収集・安否確認	6月14日(月)～7月16日(金)	7月1日(木)
第3回：消火・救助救出・応急救護	7月20日(火)～8月27日(金)	8月3日(火)
第4回：避難訓練等	8月30日(月)～10月8日(金)	9月14日(火)
第5回：地域や保護者との連携	10月12日(火)～11月19日(金)	10月25日(月)
第6回：食料等の備蓄&その他	11月22日(月)～12月28日(火)	12月6日(月)
年間レポート提出	1月21日(金)	認定講座レポート作成

「認定講座」では、**保育防災が園全体での取り組みであること、そして園オリジナルの取り組みであることを実現するために**、  
 ①カテゴリーごとに「活動期間」を設定し ⇒ ②その期間、参加園それぞれで、園全体でカテゴリーに沿った課題の共有と達成方法が協議され ⇒ ③その結果がワークショップ開催日に発表され、講座参加者の中でブラッシュアップされ、さらに参加園に還元されるという徹底した参加型・循環型の方法で運営されています。幸いにも参加園（者）にもご共感いただき、これまでにない画期的で充実した保育防災講座となっています。

「認定講座」における「保育防災アクションマイスター」は、2022年2月14日(月)、15日(火)に開催予定の**JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2022」**における活動発表をもって認定されます。いよいよ、「認定講座」における認定者、及び認定園の一期生が誕生します。楽しみです。

#### 2. 「保育防災アクションマイスター認定講座」見学（体験）参加者を募集

「保育防災アクションマイスター認定講座」二期生（2022年度生）募集に向けて、認定講座の見学（体験）参加者を募集します。現在、自園で取り組まれておられる保育防災の改善や、新年度からの「認定講座」への参加を検討されておられる参加園で、ご希望される方がいらっしゃいましたら、上記開催スケジュール内、**第5回（10月25日）、及び、第6回（12月6日）**に限り、見学（体験）参加が可能です。**ご希望の方は、開催日1週間前までに、子森ネットまでお申込み下さい。**

\*ただし、講座内での発言はできません。\*各日程、先着5名までとさせていただきます。

### 3. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ（2021年8月号）

「子森通信」では、毎年、保育・幼児教育において、優れた研究や活動に取り組んでいらっしゃる4人の方々に、3か月交代でリレーエッセイをお願いしております。「子森通信」2021年7月号から9月号は、保育環境研究所ギビングツリー代表 / 新宿せいが子ども園 園長 藤森平司先生にお願いしました。今月号が最終回となります。

#### 森の緑

保育環境研究所ギビングツリー代表 新宿せいが子ども園 園長 藤森 平司



森の中では、緑色に包まれます。この森の色である緑色にはリラックス効果があり、見ることでPCやスマホなどで疲れた目を休ませてくれます。また、リラックスしたときに働く副交感神経の活性化にもつながると言われています。実はこんな研究がされています。それは、緑視率 = (緑の面積) / (撮影範囲) という、人の視界に占める緑の割合を測る指標があります。いわゆる緑の多さを表すものですが、国土交通省が平成17年に発表した緑視率についての調査資料では、「緑視率が高い場所ほど安らぎを感じる人が多い」という結果がまとめられています。千葉大学・兵庫県立大学・大阪大学の研究者が2006年に発表した実験結果では、屋内空間に観葉植物を設置した場合、設置しない場合に比べてストレスホルモンが減少すると報告されています。また、職業能力開発総合大学校が2012年に発表した研究結果によると、オフィスにおける緑視率の高さは、ストレスだけでなく疲労感も軽減するとされています。特に、眼精疲労を和らげる効果が高いという結果が報告されており、今後、教育現場でパソコンのディスプレイを長時間見ることが多くなると、観葉植物などを置いて、室内の緑視率を高める必要があるかもしれませんし、合間に外に出て園庭の木々の緑を見ることも必要です。ちなみに、豊橋技術大学と企業の合同研究によると、「室内での緑視率が10～15%の場合、最も精神的ストレスが緩和され、パフォーマンスが向上する」という結果が出ています。屋外では、国土交通省による社会実験では、緑視率が25%以上確保されていると人は「緑が多いと感じはじめると」されており、安心感を覚えるといった結果が得られているため、緑視率 25%以上が目標値の目安になると考えられています。窓から見える外の景色の中に緑が入ってくると、癒されますね。



トイレ観葉植物



観葉植物

もう一つ、「緑被率」というものがあります。それは、上空から見た時の樹木・樹林・草地・屋上緑化に覆われている土地の面積比率のことで、みどりの豊かさを示す指標の一つです。緑が少ないと言われる園のある新宿区では、10年間で緑被率1%アップを目標にしています。現在5年目で、17.98%で、着実に増えています。

新型コロナの影響により、閉鎖的な保育室では、子ども達の精神的ストレスが心配です。そんな時には、部屋に観葉植物を置くなり、管理が大変であれば、本物そっくりの人工観葉植物や造花、フェイクグリーンを置いても同様に効果が期待できるそうです。

#### ★information

藤森先生新刊のご案内：『まなびのデザイン「くうかん」』 / 世界文化社

アジアでも注目される「見守る保育」。子どもたち一人ひとりが主体的に活動するための空間づくりが学べます。実際の園での実例写真を豊富に掲載しているので、視覚的にも理解しやすい構成となっています。

(世界文化社ホームページより)

\* 詳細 / 購入 ⇒ <https://www.sekaibunka.com/book/exec/cs/21714.html>

